

SBI GROUP HISTORY

時流に合わせたグループ全体戦略によって自己進化を繰り返してきました

SBIグループは1999年の創業以来、下記の事業構築の基本観に基づいて事業領域や事業規模を拡大してきました。そして時代の変化を逸早く察知し、その変化に対応する全体戦略を実行することで成長を遂げてきました。

事業構築の基本観

顧客中心主義の徹底

SBIグループでは創業以来、顧客利益を最優先する「顧客中心主義」を掲げています。株式売買委託手数料の価格破壊、好金利の預金商品の提供、業界最低水準の保険料の実現など、インターネットを活用して価格競争力を持つ商品・サービスを提供することに加え、お客さまのニーズに合わせた商品ラインナップの拡充や、ネットとリアル店舗の融合にも努めています。

企業生態系の形成

「企業生態系」とは、互いに作用しあう組織基盤によって支えられた経済共同体のことを指します。SBIグループでは、「全体は部分の総和以上である」「全体には部分に見られない新しい性質がある」という「複雑系の科学」の二大命題をもとに、単一の企業では成し得ない相乗効果と相互進化による高い成長ポテンシャルを実現する「企業生態系」を構築してきました。

グループシナジーの徹底追及

SBIグループでは、「企業生態系」の中でのシナジーを徹底的に追求してきました。金融サービス事業の3大コア事業である証券・銀行・保険では、サポートする関連企業群を形成し、相互にシナジーを発揮することで、飛躍的な発展を遂げてきました。また、コア事業間においても相互送客やサービス連携を通じてシナジーを実現しています。更には事業セグメントを超えたシナジーの発揮もグループの成長に寄与しています。

技術進化を逸早く取り込む

SBIグループは、AIやブロックチェーン、ビッグデータ、IoT等の新たな技術を積極的に活用しています。革新的な技術開発が世界的に進展するフィンテック領域のほか、AIやブロックチェーン分野の有望なベンチャー企業に「投資」し、投資先企業の有する新技術等をグループ内金融サービス事業各社へ「導入」、そしてそれらの技術を業界横断的に「拡散」という3つのプロセスを通じ、成長を推進しています。

全体戦略の変遷

1 日本のSBIから世界のSBIへ

SBIグループは、2005年に日本の所得収支が貿易収支を逆転したことを契機に、アジア地域を中心とした潜在成長力の高い新興諸国での投資体制の整備を加速させ、現地有力パートナーと共同でファンドを設立し投資を行ってきました。現在ではこのグローバル投資体制を一層強固にするとともに、アジアを中心に金融サービス事業の展開を推進しています。

(億円)

50,000

40,000

30,000

20,000

10,000

0

'00 '01 '02 '03 '04 '05 '06

■ 資産合計(左軸)

■ 税引前利益(右軸)

1999年3月にソフトバンク(株)(現ソフトバンクグループ(株))の金融子会社としてソフトバンク・ファイナンス(株)が設立されSBIグループがスタート。更に1999年7月、ベンチャーキャピタル事業を営むソフトバンク・インベストメント(株)(現SBIホールディングス)が設立されました。

社会動向

- 日本版金融ビッグバン
- インターネット革命

- 日本の貿易収支と所得収支の逆転

2

選択と集中

パリバショックを端緒に経済環境が悪化する中で、収益性を重視する経営へ転換するべく、SBIグループでは2011年3月期から事業の「選択と集中」を徹底してきました。具体的には、金融サービス事業における3大コア事業とのシナジーが弱い不動産事業をはじめとするノンコア事業の売却や、シナジーをより発揮しやすい形へのグループ内での組織再編などです。そこで創出したキャッシュをはじめとするグループのリソースを、主要3事業である金融サービス事業、アセットマネジメント事業、バイオ関連事業に集中的に投入することで、赤字事業の早期黒字化や黒字事業の更なる利益拡大といったグループ全体の収益性強化を実現してきました。

3

フィンテック1.5~2.0への移行

これまでSBIグループは、インターネット金融生態系を構築することでグループの飛躍的成長を実現してきました。この金融生態系をフィンテックの初期段階であるフィンテック1.0と捉え、今後は革新的な技術の一つであるブロックチェーンを中核とする、新しい金融生態系(フィンテック2.0)への進化を目指します。

4

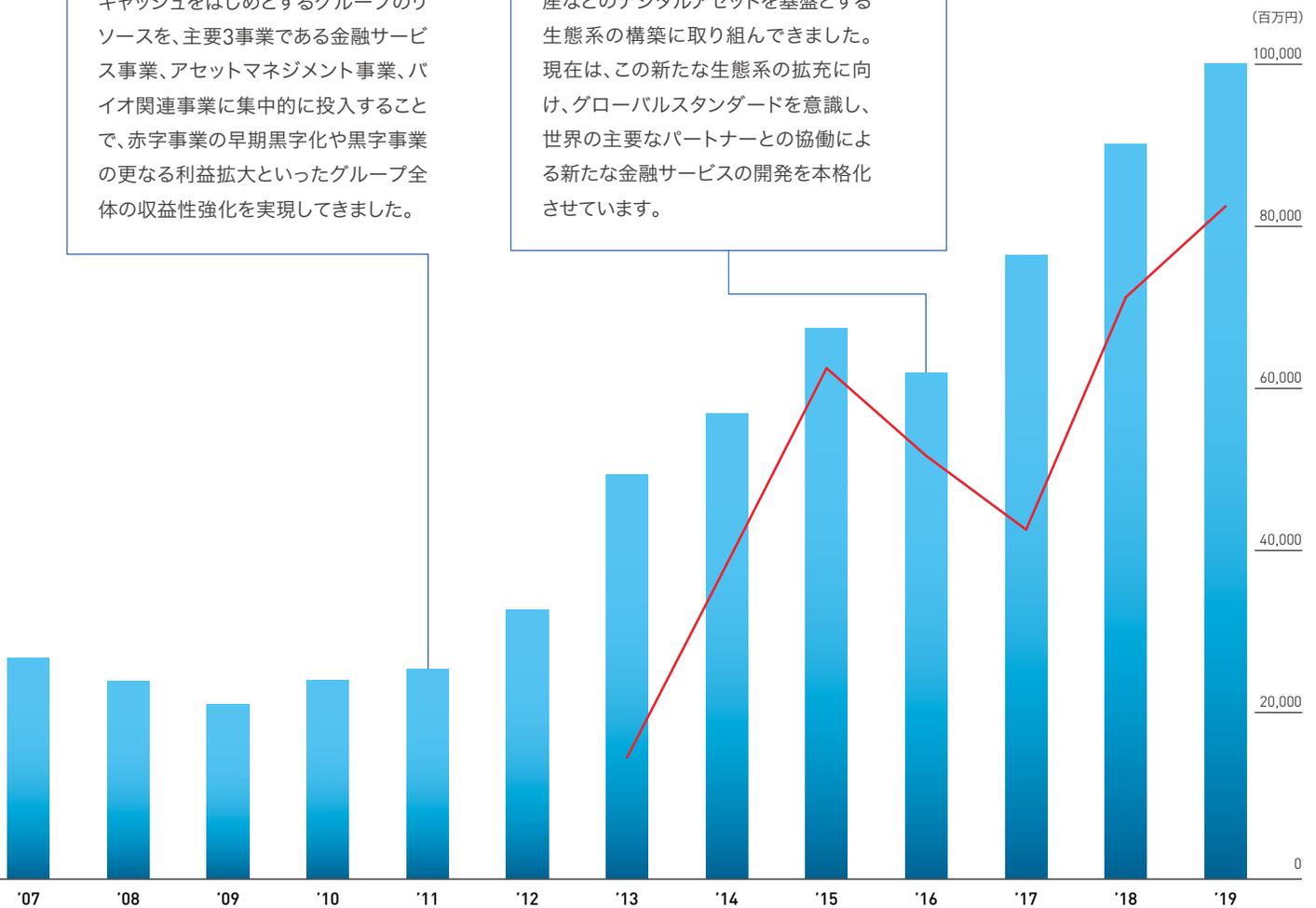
デジタルアセットを基盤とする新たな生態系の確立

昨今、暗号資産への投資に対して、世界的に機関投資家の期待が高まっていますが、SBIグループは早くから暗号資産などのデジタルアセットを基盤とする生態系の構築に取り組んできました。現在は、この新たな生態系の拡充に向け、グローバルスタンダードを意識し、世界の主要なパートナーとの協働による新たな金融サービスの開発を本格化させています。

5

地域金融機関との共創

足元で続くマイナス金利政策や、金融イノベーションの進展、高齢化・人口減少社会の到来など、地域金融機関は短期・中期・長期的な観点から厳しい状況に置かれているといえます。そのためSBIグループは、フィンテックなどの新技術を活用した商品・サービスの導入支援、資産運用など様々な面から地域金融機関をサポートし、共創を図っています。



※2013年3月期より国際会計基準(IFRS)を適用しているため、2012年3月期以前の「資産合計」は日本会計基準の「総資産」の数値を記載しています。

● リーマンショック

● フィンテックの台頭
● アベノミクス

● 地方創生の促進(参照:P.63用語集)